

シーサイドライン平成22年度決算概要

シーサイドラインを運営する横浜新都市交通株式会社(代表取締役社長 太田 浩雄)の平成22年度決算を報告いたします。

1. 決算の概要

当期の営業収入は、景気の先行き不安感及び記録的な猛暑、さらには東日本大震災による計画停電の影響等を受け、前年度を下回る37億60百万円となりました。このような状況の中、営業費用は人件費・修繕工事費などの経費の削減により前年比2億39百万円減の25億98百万円となり、この結果、営業利益は11億61百万円、当期純利益は5億93百万円となりました。

また、平成22年8月に横浜市からの25億円の増資により、平成5年度から続いておりました債務超過状態が解消されました(平成23年3月末純資産16億22百万円)。

(単位：百万円、単位未満切捨て)

	平成22年度	平成21年度	増減 (率)
営業収入	3,760	3,861	△101 (△2.6%)
営業費用	2,598	2,837	△239 (△8.4%)
営業利益	1,161	1,024	137 (13.4%)
経常利益	1,027	906	121 (13.4%)
当期純利益	593	646 (注)	△52 (△8.2%)

(注) 平成21年度の当期純利益は4億41百万円でありましたが、税効果会計を適用したことにより法人税等調整額で2億5百万円を計上した結果、6億46百万円となっております。

(単位：百万円、単位未満切捨て)

	平成23年3月末	平成22年3月末
純資産	1,622	△1,470

2. 当期の主な取組み

(1) 安全対策 ☆新型車両導入(1編成/5両)
☆ATO/列車無線他地上設備更新

(2) サービス向上 ☆ダイヤ改正実施(平成23年2月)
・始発列車の繰上げ、終列車の繰下げ、朝ラッシュ時間帯の増発
☆改札外エレベーター設置(並木中央駅・福浦駅)
・全駅バリアフリー化完了
☆全駅トイレ設置完了
☆駅舎改良(福浦駅/暑さ対策他)

- (3) 増収・利用促進策
- ☆オフタイム回数券導入
 - ☆新杉田駅への新店舗の展開（3店舗）
 - ☆副駅名称の販売（計5駅）

3. 旅客人員の状況

当期の旅客人員の状況については、定期はほぼ前年並みに推移しましたが、定期外は景気の先行き不安感及び記録的な猛暑、さらには東日本大震災による計画停電の影響などから前年比35万8千人（△4.0%）の減少となり、総合計として前年比43万人（△2.4%）減の17,586千人となりました。

（単位：千人、単位未満切捨て）

	平成22年度	平成21年度	増減	(率)
定期人員	9,043	9,114	△71	(△0.8%)
定期外人員	8,543	8,901	△358	(△4.0%)
全旅客人員	17,586	18,016	△430	(△2.4%)

4. 平成23年度収支の見通し

23年度収支については、少子高齢化の進展、長引く厳しい雇用情勢、さらに東日本大震災による沿線集客施設への影響等により、輸送人員及び運輸収入共に厳しい見通しにありますが、引き続き新型車両の導入（4編成／20両）を計るとともに自立した経営を目指し、黒字経営の継続に取り組んでまいります。